

平成9年10月5日(日)

## 第23回 越谷市民まつり

# 郷土研究会 展示出品紹介

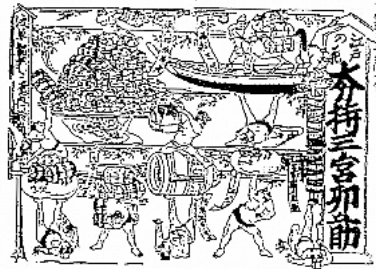
『越谷出身の江戸力持ち

三野宮卯之助』

越谷市郷土研究会 理事 高崎 力

『御殿町の建長の板碑』

越谷市郷土研究会 理事 鈴木種雄



江戸浅草観音境内における三ノ宮卯之助の興行広告  
(神戸商船大学図書館蔵)



天保七年(1836年)の力持番付  
関脇の欄に「三ノ宮 卯之助」の文字が見られる

## 越谷出身の江戸力持 三野宮卯之助

高崎 力

江戸時代の中ごろより若い人の間で「力くらべ」が流行し、神社祭礼日には村大会まで開催された。

その時使われた「力石」は今に伝えられている。

市内で最も古い力石は、東越谷の香取神社にある元禄十三年(一七〇〇)、一番新しいのは蒲生久伊豆神社の大正八年(一九一九)である。

刻字のある「切付力石」は、総数三十七箇所以上、七十二基以上になっている。

江戸力持といわれた三野宮卯之助は、文化四年(一八〇七)三野宮地区に生まれた。はじめは虚弱体質の子だったが、力くらべに精を出し、天保七年(一八三六)、卯之助二十九歳の時には「江戸力持番付表」では関脇に昇進している。

一方、力のある人が「力持」を見世物として公演し、木戸銭をとるようになった。卯之助はこの頃より力持仲間を集めて一遊をつくり、力持見世物興行をはじめた。

彼が道々の神社仏閣に奉納した力石をたどっていくと、一座の興行ルートが判明する。現時点では遠く兵庫県姫路市まで確認されている。

「卯之助」の刻名のある力石は、越谷市六基、横浜市五基。

岩槻市・川崎市・姫路市各二基。川口市・戸田市・桶川市・木更津市・長野県下諏訪町各一基。

市内の力石は後世へ大切に引き継ぐよう、ご協力をお願いします。

## 御殿町の建長の板碑

鈴野木 種雄雄

市内御殿町の元荒川畔に、越谷市域で最古・最大の板碑がある。

建長元年(一二四九)の銘があり、平成十一年には造立七五〇年になる。

・場所 越谷市御殿町三の八付近

・形状 高さ 一五五cm 上幅五三cm 下幅六三cm 厚さ九cm

・刻銘 阿弥陀如来の種子 建長元年己酉 (栗研彫り)

下部は欠けており、願主・願文は不明

全長二m以上と推測される。

・文化財 越谷市有形文化財指定 昭和四五年三月二五日

越谷市域の板碑の幅の平均は二〇cm前後であるから、これほどの板碑をつくる経済的基礎をもつ豪族が、この地に住んでいたことがわかる。

日本最古の板碑が嘉禄三年(一二二七)で、建長元年の板碑は、それより

二二年後に造立された初期板碑である。

板碑は、鎌倉期から戦国期までの四百年間につくられている。

死者の冥福のため、あるいは自分の死後の菩提(逆修)のためたてられた。地方により石材は異なる。埼玉周辺地域では、武蔵型板碑とよばれる薄く

板状にはがれる緑泥片岩がつかわれている。

この岩は荒川上流の秩父地方におおく産し、加工しやすい。

御殿町の板碑は、荒川の水運ではこぼれてきたものであろう。

武蔵型板碑は、現在約四万基あり、埼玉県内で約二万基をかぞえる。越谷市域では一三四基(昭和五十年)が確認されている。板碑は、中世の仏教信仰、豪族や武士の展開、経済状況、河川交通のあり方をさぐる資料の一つである。

